

# みんなのほくぶつかん みんなばく

MINPAKU

ゆったりがぎっしりと。

春のみんなばくフォーラム2016「ゆったり東南アジア」

2015年12月～2016年2月

古来、多様な民族と文化が交錯してきた東南アジア。近年の経済成長により急速な変化が訪れつつある一方で、人びとの生活はのんびりと流れ、よそものであっても温かく迎え入れてくれるような、ゆったりとした心構えもあるそうです。南アジア展示と同じく2015年3月にリニューアルした東南アジアの新展示フォーラムが、12月より始まります。題して「ゆったり東南アジア」。実行委員の福岡正太先生にお話を伺いました。

まずは、みんなばくゼミナールやウィークエンド・サロン、友の会講演会では、展示の紹介や、収集・制作の背景などを講師がお話します。展示の理解がぐっと深まります。モノの展示では伝えにくい現代の東南アジア社会が抱える問題については、みんなばく映画会で3本の映画をとおして考えます。時代や地域、テーマは異なりますが、東南アジア社会を生きぬく子どもの姿が共通して描かれているそうです。

そして充実しているのは芸能にまつわるワークショップと講演です。マレーシアやインドネシア、ラオス、カンボジアの仮面舞踊やパフォーマンス、影絵芝居について、研究者やパフォーマーを講師に全6回おこなわれます。儀礼や祭りなど、生活に息づく芸能について学び、実際に身体を動かしてみることで、東南アジアの人びとの日常の姿を垣間見ることができることでしょう。

新展示をもっと楽しみ、東南アジアのゆったりとした日常にふれる新展示フォーラムに、ぜひご参加ください。



インドネシア、バリ島の魔女ランダと聖獣パロンは、新しい展示のためにあらたに制作されたものです



展示場に設けられた「ゆとりぎスペース」。ここで腰掛けてひと休みすれば、東南アジアのゆったりとした時間の流れを感じ取ることができるかもしれません



インドネシア、ジャワ島西部の人形芝居ワヤン・コレックの木彫り人形は、一体一体が特徴的な顔をしていて、それぞれに役回りがあります。その種類や顔つきの多様さは、この地域に多様な民族、文化の往来があったことをうかがわせるようです

※催しの詳細は「みんなばくinformation」(12-13頁)、みんなばくホームページの「ゆったり東南アジア」のページ (<http://www.minpaku.ac.jp/museum/event/forum/201512seasia/index>) をご覧ください。

## みんなばくをもっと楽しみたい人のために——— 会員制度のご案内

詳細については、一般財団法人千里文化財団までお問い合わせください。電話06-6877-8893(平日9:00～17:00)

### 国立民族学博物館友の会

本館展示の無料入館や特別展示の観覧料割引にくわえ、『月刊みんなばく』や会員機関誌『季刊民族学』などの定期刊行物や、毎月の友の会講演会、セミナーなどを通して多様な文化の情報を提供しています。

### みんなばくフリーパス

1年間、本館展示へ何度でも無料で入館いただけます(特別展示は観覧料割引)。他にも、みんなばくを楽しむための特典がいっぱいです。

### 国立民族学博物館 キャンパスメンバーズ

みんなばくと大学等教育機関との連携を図り、文化人類学、民族学にふれる学びの場を提供することを目的とした会員制度です。